

あとがき

この「教室で使えるグループワーク」は市立札幌開成中等教育学校の実例をもとにつくられました。ここでは国際バカロレア（以下 **IB**）のミドル・イヤーズ・プログラム（**MYP**※1）を活用した課題探究的な学習を行っています。その導入にあたり、教師は国際バカロレア機構が主催する公式ワークショップに参加しています。本冊子でとりあげた八つのケースは実際にグループワークで生徒と教師が直面したことばかりです。教師は「チェンジ」によって生徒たちに働きかけ、その結果、グループワークは積極的になり、より深い話し合いになっていきます。

IBの目的は「多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成※2」です。**IB**は1968年国際標準のプログラムとしてジュネーブで開発され、その後、3歳～19歳までの総合的な教育プログラムに発展し、年齢層に分かれた四つのプログラムとして提供されています。現在、世界で4600以上が**IB**認定校としてそのプログラムをとり入れています。日本ではインターナショナルスクールも含め40校程度（2017年2月現在）ですが、文部科学省では国内の**IB**認定校を200校にすることを目指しています。

IBを用いた学習の場面では一つの正解を求めず、一人一人の多様な考え方、見方を大切にします。そして子どもたちや教師が経験した「知」にもとづく探究（インクワイアリー）を重要と考えます。疑問や気づいたことを出しつづす「探究」、出てきた多くの要素をつかみ取り整理する道具「コンセプト※3」。これらは**IB**の手法による授業の中で繰り返し使われ、子どもたちはこの実用的で科学的方法で自ら学習に向き合うようになります。

例えば、本冊子の中のクリティカルシンキング（批判的思考力）は**IB**が定める学習の方法=**ATL**※4の「思考」の一つに含まれ、学習の質を高め、子どもたちの視野を広げるスキルです。**ATL**にはその他「コミュニケーション」

「社会性」「自己管理」「リサーチ」があり、これらを身につけることで生涯にわたって自律的に学び続ける力が無理なく養われていくのです。

また、子どもたちがさまざまな場面で意識するのは、生きる上で必要なスキル、視野、姿勢を言葉にした「**IB**の学習者像※5」です。教師、保護者も学習者であり、常に「学習者像」に自己を照らし合わせ、精神的・内面的な成長が求められます。とりわけグループワークにおいては重要な指針で、子どもたちが、表面的で散逸した知識集めから、現実的、科学的、構造的な学びへと深化するためにはなくてはならないものです。本冊子の「バランス」は学習者像の中の「バランスのとれた人」、「リフレクション」は「振り返りができる人」にあたり、他の学習者像も本質的なものばかりです。

本冊子で紹介したグループワーク活性化のヒントは授業を変えるための、小さなきっかけに過ぎないでしょう。しかし、子どもたちと教師、保護者が一緒に、その変化を楽しみ、わくわくして、安心して学習に向き合えばやがて**IB**の目指す「平和な世界を築くこと」につながると確信しています。

平成29年（2017年）3月
札幌市教育委員会
市立高校外部の専門人材活用推進委員会

※1: 国際バカロレア機構. (2016). MYP: 原則から実践へ. カーディフ: 国際バカロレア機構.

※2: 国際バカロレア機構, 2016

※3: コンセプト: MYPの中で定義されるキーコンセプトは16. 美しさ、変化、コミュニケーション、コミュニティ、つながり、創造性、文化、発展、形式、グローバルな相互作用、アイデンティティ、論理、ものの見方、関係性、システム、時間・場所・空間

※4: ATL=Approaches to learning: 学び方を学ぶのに役立つ「学習の方法」として10のスキルが下記の5つのカテゴリーに分類されている。Communication, Social, Self-management, Research, Thinking

※5: IBの学習者像: 探究する人、知識のある人、考える人、コミュニケーションができる人、信念をもつ人、心を開く人、思いやりのある人、挑戦する人、バランスのとれた人、振り返りができる人